

県立安芸津病院広報誌

四季だより

冬号 2022年1月(第85号)

監修 広報・患者サービス向上委員会
発行 県立安芸津病院
広島県東広島市安芸津町三津4388
TEL 0846-45-0055



皆様、新年あけましておめでとうございます。

寒い日が続きますが、皆様におかれましては如何御過ごしでしょうか？

さて、昨年も一昨年同様、コロナに振り回された1年でした。安芸津病院もその対応に追われた1年となりました。面会制限、入院制限など皆様には大変御不便をおかけし申し訳ありませんでした。御陰様を持ちまして何とか第5波を乗り切ることができました。またコロナワクチンの集団接種も無事終了することができました。心から御礼申し上げます。これまでの経験から、ワクチン接種によって完全には感染を防ぐことはできないものの、仮に感染しても重症化は稀であることが判明しました。ワクチンの効果が証明されたわけです。しかしまだ安心はできません。オミクロン株なる変異株が発見等もあり、厚労省により、3回目のワクチン接種が進められているところです。今後も標準予防策の継続はやむを得ないでしょう。



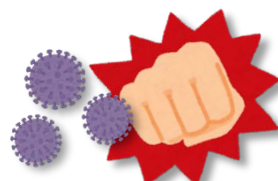
一方、コロナ禍にあって、暗い話題のみではありませんでした。当初、開催に対し



賛否両論渦巻いた2020東京オリンピック・パラリンピックでしたが、日本勢のメダルラッシュがコロナ禍で沈滞ムードにあった日本中の人々に勇気と希望を与えてくれたことは記憶に新しいところです。コロナ感染が今後どのような広がりを見せるのか、はたまた終息していくのか、

見通せない状況ではありますが、この状況を打破するため、みんなで協力して

感染を防ぐ必要があります。



みんなでコロナを撃退しましょう！

がんばれ広島！ 広島といえばカープ！ 昨シーズン後半の躍進に希望が見えた！ 今年こそ優勝だ！

院長 後藤 俊彦

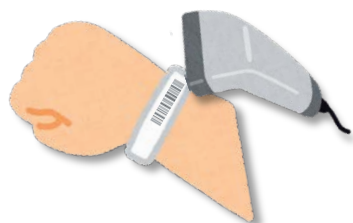




当院の医療安全への取り組みについて



1999年の相次ぐ医療事故の報道以降、医療法を通して医療機関の医療安全管理体制の整備を促し、また安全対策を講じられた医薬品や医療機器などの普及を図るなど、国を挙げて、対策が取られてきました。医療安全を推進するうえで、24時間365日患者様の看護をし、提供される医療ほぼすべてに関与する看護職の役割は大きく、当院で



も5名の看護師が医療安全管理者として患者様へ安全・安心な医療が提供できるよう活動しています。

その取り組みの一環として、当院では患者様の医療への参画をお願いしています。入院中は常時リストバンドを装着していただき、検査、点滴、注射、

輸血を行う際にリストバンドを活用し認証業務（バーコード読み込み）を行うことで患者様の確認をより確実にしております。

また、外来では患者様にお名前を名乗っていただき、必要があれば生年月日をお尋ねし、確認を行っております。

このような地道な活動を通じて職員全員一丸となり患者様に信頼していただける病院作りに取り組んでおります。

医療安全管理者 3階病棟副看護師長 八木 律子



メタボリックシンドロームと脂肪肝



メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型肥満をもとに、高血糖、高血圧や脂質異常が重なることで動脈硬化が進行し、心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患の発症リスクが高くなる状態です。このメタボリックシンドロームの肝臓病といえるのが、「非アルコール性脂肪性肝疾患」です。



「非アルコール性脂肪性肝疾患」は、非アルコール性の脂肪肝と、そこから肝炎や肝硬変へと進行した状態を含めた呼び方です。

脂肪肝は、肝臓に脂肪が多たまった状態をいい、アルコール性と非アルコール性があります。お酒の飲みすぎは、脂肪肝にとど

まらず、肝炎や肝硬変に進行することが知られていますが、お酒を全く飲まないか少量しか飲まない非アルコール性の脂肪肝の一部にも、それらへの進行がみられることがあるのです。

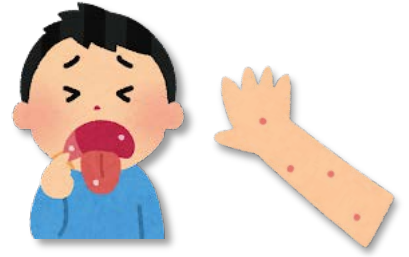


「非アルコール性脂肪性肝疾患」の治療の基本は食事療法、運動療法による生活習慣の改善です。肝障害の進行を抑えることと、メタボリックシンドロームを抑制して心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患を防ぐことが目標です。糖尿病や脂質異常症、高血圧があれば治療しますが、これらの治療薬の中には、「非アルコール性脂肪性肝疾患」への効果が期待できるものもあります。また新たなお薬の開発も進んでいます。

当院では、メタボリックシンドローム治療の一環として、管理栄養士による個別指導も行っています。興味のある方は内科外来にご相談ください。

ベーチェット病について

ベーチェット病は口腔粘膜のアフタ性潰瘍、外陰部潰瘍、皮膚症状、眼症状の4つの症状を主症状とする慢性再発性全身性炎症性疾患です。稀な疾患で日本では北海道、東北に多く、北高南低の分布を示します。平成25年3月末現在、この疾患の特定疾患医療受給者数は19147人で世界的にみると、日本をはじめ、韓国、中国、中近東、地中海沿岸諸国に多く見られるためシルクロード病とも呼ばれています。男性の方が重症化しやすく、内臓病変、特に神経病変や血管病変の頻度は女性に比べて高頻度です。眼病変も男性に多く、特に若年発症の場合は、重症化し失明に至る例もみられます。発症年齢は男女とも20～40歳に多く、30歳前半にピークを示します。



病因は現在も不明ですが、虫歯菌を含む細菌やウイルスなどの微生物の関与が想定されています。ベーチェット病の遺伝的素因を持った人に、これらの微生物が侵入すると異常な免疫反応が炎症を引き起こし、ベーチェット病の発症に至るという考えが有力です。

予防は休養と保温に気を付け、ストレスの軽減に努め、歯磨きなどで口腔内の衛生に留意することが重要です。また喫煙は病気の悪化因子になると言われています。

治療はベーチェット病の病状は非常に多様のため、すべての病状の対応できる単一の治療はありません。個々の病状や重症度に応じて治療方針を立てる必要があるため専門医での治療が必要です。

消化器内科部長 田中 友隆



嘔吐後の誤嚥性肺炎って怖い!!

「誤嚥性肺炎」と聞くと高齢になり食べたり飲んだりするときにむせて肺炎になると思われている方が多いでしょう。それは間違いではありません。

怖いのは、嘔吐後誤嚥と言って何らかの原因で吐いてしまった時、その吐物を誤嚥し、肺炎になってしまう場合です。吐物には胃液（酸性）が含まれるため通常の誤嚥性肺炎より重症化することが多いです。当院では「食べる」「飲み込む」の機能に食事の形が



合わずむせてせき込み吐き、誤嚥してしまった肺炎での入院が増えてきています。年齢を重ねるごとに「食べる」「飲み込む」機能は徐々に落ちてきます。少し前まで普通に食べられていたものでもよく噛まないと食べられないことや柔らかくしないと食べられないことが起こってきます。私もその人にあった食事の形はどのようなものなのかNST（栄養サポートチーム）とともに考えさせていただいています。最近よくむせる等ありましたらご相談ください。

いずれにしても誤嚥性肺炎を予防するためには口腔内をきれいにし、多少の誤嚥には負けない体づくりが大切です。寒い冬ですが元気に乗り越えていきましょう。





緩和ケアチームの紹介



こんにちは、緩和ケアチームです。最近では一生のうちに癌と診断される確率は男女ともに 2 人に 1 人という報告がされています。その中で私たちは、その人らしく生活ができるように生活の質（QOL）の維持・向上を目指しています。

私たちは院内であれば外来、病棟を問わず良質な緩和ケアが受けられるように、緩和ケア外科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーというさまざまな専門職からなるチームを形成し活動しています。緩和ケアは癌にともなう心と体のつらさを和らげるように努めます。患者様の心に寄り添えるように癌の診断から終末期に至るまでシームレスな治療、ケアを行っています。



緩和ケアと聞いてまず「癌」が頭に浮かぶ方が多いと思いますが、緩和ケアでは癌でなくとも慢性的な痛みで苦しんでいらっしゃる方も対象としています。お悩み、お困りの際には気軽にご相談ください。

緩和ケアチーム 3階病棟師長 吉川 恵美子



フットケアについて



皆様、ご存知でしょうか。「糖尿病のために世界で 30 秒間に 1 本の足が失われている」といわれています。糖尿病で血糖値が高い状態が長く続くと、糖尿病の 3 大合併症のひとつである神経障害や、動脈硬化などが起こります。動脈硬化は血流障害を起こし、結果、足に様々な異常が出やすくなります。また、高血糖の状態はからだの抵抗力を落とすため、細菌感染が起こりやすくなります。さらに、糖尿病の合併症である糖尿病網膜症などにより視力が低下してくると、傷などの足の変化に気づきにくく、放置したまま足潰瘍（かいよう）や壊疽（えそ）などの重大な病変（糖尿病足病変）に進行してしまうことがあります。



大切な足を守るためには、血糖値を良好にコントロールするとともに、ご自身の日々のお手入れ（フットケア）がカギになります。ご自身の足の状態を知り、その状態に合わせた方法で手入れをしていくことが大切です。ぜひ、お風呂に入ったときに自分の足を見て手で触ってみてください。万が一足に異常があればそこから足の異常に気づくことがあるかもしれません。それも自分でできるフットケアです。



当院でも、毎月第2・4火曜日にフットケア外来を行っています。興味のある方は、主治医または内科外来看護師にお声がけください。

内科外来看護師 吉田 美由紀

***** 編集後記 *****

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は、寅年です。寅は、毛皮の模様から夜空に輝く星と考えられ、厳しい冬を超えて、芽吹きはじめ、新しい成長の礎となるイメージと言われています。今年も患者様の安全と安心、信頼と満足度を高めるため、職員一人一人が成長していける年にしたいと思っています。

2021 年の新語・流行語大賞のトップ 10 に、コロナ禍において人出の意味合いで頻繁に使用された“人流”や食事の際に会話をしない、マスクの着用を徹底するなど、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策として広まった“黙食”が入っていましたね。地域の皆様においても引き続きの感染対策をよろしくお願いいたします。

今年も地域の皆様のお力になれるように、皆様の声に耳を傾けながら頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

副院長（兼）看護部長 岡 賢美

